

第十一回企業活性化研究分科会・議事録

<第十一回 2008年5月24日(土) 時間：13：30～17：00 於：専修大学(神田校舎)>

1. 参加者：山本、井端、大野、木村、古山、大柳、渡邊、横山、星野、魚谷、菅原、
宮川、齋藤

2. テーマ：企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ：『*継続企業の前提の注記規準に関する分析(2)*』

- ・報告者：大柳康司
- ・配布資料：17枚
- ・報告内容の要旨

本報告では、前回の判別関数で正確に判別できなかった企業を中心に、検定や判別分析において利用される第1種の過誤および第2種の過誤を用いて企業を分類することによって、その特徴をより明確にする。その際の仮説は「継続企業の前提に疑義がある」であった。財務データを分析した結果、2001年から2003年まで連続して第1種の過誤に分類されている企業が21社あり、第2種の過誤に分類されている企業が22社あることがわかった。

今後の研究としては、第1種の過誤に分類された企業21社および第2種の過誤に分類された企業22社の要因を調査すべく、財務データのみならず非財務データをも取り入れた詳細な分析を行っていく。特に興味深い企業を数社とりあげ、ケーススタディを行っていく必要がある。

第1種の過誤：継続企業の前提に疑義があるにもかかわらず、モデルで問題のないグループに分類された企業
第2種の過誤：継続企業の前提に疑義が付されているにもかかわらず、モデルで問題があるグループに分類された企業

4. その他

次回の日程

- ・7月5日 ARIMASS 年次大会 早稲田大学大久保キャンパス

(文責：齋藤幸雄)